

<同時開催>

絵本の舞台を訪ねて

赤羽末吉の日本一周

ちひろ美術館コレクション

波にゆられて舟の旅

子どもに
最高のものを——
同い年、
本気で童画を描いた
ふたりの画家



1 いわさきちひろ 『青い鳥』(世界文化社)より 1969年

初公開



2 堀文子 『トツパンの絵物語 青い鳥』(新装版、フレーベル館)より 1969年
(一般財団法人堀文子記念館蔵)

いわさきちひろと堀文子 童画の世界

2026年9月11日(金)～12月15日(火)

安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

いわさきちひろ(1918-1974)と堀文子(1918-2019)は同じ年に生まれ、激動の昭和の時代を生きた同世代の画家です。ともに青春時代を戦争のなかで過ごし、戦後の復興のなかで児童出版の発展に大きな足跡を残しました。ちひろが駆け出しの画家として新聞や雑誌に絵を発表し始めたころ、堀文子はすでに日本画家として活動し、童画の世界でも注目されていました。ちひろは同じ年の堀の存在を、少なからず意識していたに違いありません。ちひろが童画家として認められ新しい絵本の表現を求める途上、1974年に55歳で早逝したのに対し、堀は1970年代に決意して絵本を離れ、100歳まで日本画家として絵を描き続けました。本展では、ふたりの絵と人柄を愛する黒柳徹子(ちひろ美術館館長・堀文子記念館代表理事)の視点も交えながら、ちひろと堀の童画家としての仕事を紹介します。

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一財)日本国際児童図書評議会、
日本児童図書出版協会、信濃毎日新聞、市民タイムス、abn長野朝日放送、
長野エフエム放送株式会社

協力：(一財)堀文子記念館、ナカジマアート、至光社



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

展覧会の見どころ

ふたりが描いたメーテルリンク『青い鳥』に注目。堀の絵本原画は本展が初公開！

ちひろは1969年に『青い鳥』の絵本を制作します。堀も同年、1954年に刊行した絵本の復刻版用に原画を描き下ろしています。同じ場面でも、表現には大きな違いが見られます。

新たな絵本の表現に挑戦した至光社の「感じる絵本」

1968年から至光社の編集者・武市八十雄は実験的な絵本づくりを模索し、堀やちひろを起用します。自然へ深いまなざしをむける堀、子どもの心を描こうとするちひろ。絵本の仕事にも、それぞれの個性の違いが発揮されています。

戦後の貴重な資料も紹介

1950年代から60年代の絵雑誌や児童書、レコード付きの絵本シリーズ「こども音楽館」など、ふたりが共通して手がけた仕事を印刷物や資料で紹介します。

出展作品数

いわさきちひろ 約40点、堀文子 約50点



3 いわさきちひろ 『ひとりできるよ』(福音館書店)より 1956年



5 堀文子 『き』(至光社)より 1968年 (一般財団法人堀文子記念館蔵)



6 いわさきちひろ 『あかちゃんのくるひ』(至光社)より 1969年



4 堀文子 キンダーブック「おたんじょうび」(フレーベル館) 1956年 (一般財団法人堀文子記念館蔵)



7 いわさきちひろ こどものせかい 「ぶどうをもつ少女」(至光社) 1973年



8 堀文子 こどものせかい「はやくとびたいのね」(至光社) 1976年 (一般財団法人堀文子記念館蔵)

いわさきちひろ(1918~1974)絵本画家

1918年福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。1936年東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。1956年 絵雑誌に発表した絵を対象に小学館児童出版文化賞、1961年『あいうえおのほん』(童心社)で産経児童出版文化賞、1973年『こたりのくるひ』(至光社)でポロニャ国際児童図書展グラフィック賞、1974年『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)でライブチヒ国際書籍展銅賞を受賞。

堀文子(1918~2019)日本画家

1918年東京に生まれる。1936年東京府立第五高等女学校卒。1940年、女子美術専門学校(現・女子美術大学)師範科日本画部卒。1952年上村松園賞、1969年『き』(至光社)でサンケイ児童出版文化賞、1972年『くるみわりにんぎょう』(学習研究社)でポロニャ国際絵本原画展グラフィック賞を受賞。1987年から1992年までイタリアにもアトリエを構える。1995年から2000年にかけて南米やヒマラヤ山脈などを取材。晩年は、神奈川県大磯町の自宅の庭に咲く雑草達「名もなきもの」をテーマに制作を続けた。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

絵本の舞台を訪ねて 赤羽末吉の日本一周

2026年9月11日(金)～12月15日(火)

安曇野ちひろ美術館 展示室 4

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会

協力：赤羽家

＜同時開催＞

いわさきちひろと堀文子
童画の世界

ちひろ美術館コレクション

波にゆられて舟の旅



9 赤羽末吉 『そら、にげろ』(偕成社)より 1978年

こうした独得の風土、生活から生まれた独得の文化を、しっかりと追求して、
絵本を通じて子どもに伝えてゆきたいというのが、私の考えです。

赤羽末吉 1980年 「国際アンデルセン賞画家賞授賞式挨拶」より

赤羽末吉(1910-1990)の絵本は、旅とは切り離せません。赤羽は、22歳からの15年間を中国東北部で暮らしていました。帰国すると、大陸の乾燥した風土とは対照的な、緑豊かな自然や湿り気を帯びた日本の風土に魅せられます。子どもたちに本物を見せたいと語った赤羽は、題材となる全国各地の土地を訪れ、歴史や民俗資料を熱心に研究し、絵本で表現しました。雪国への旅がきっかけとなった最初の絵本『かさじぞう』以後は、日本各地の民話や、源平合戦などの歴史、神話の舞台などを取材して、北は北海道、南は沖縄まで日本全国を歩いています。

本展では赤羽末吉の旅と絵本づくりとのつながりをひもとき、その絵本の魅力を紹介します。



展覧会の見どころ 「カゲリの美」の追求—雪国への憧れ—

赤羽は絵本を出す以前、冬に東北地方の田舎を1週間から10日かけて回り、多くのスケッチを残しました。この経験は最初の絵本『かさじぞう』に生かされ、「カゲリの美」と称した雪国のしっとりとした風土を墨絵で表現しています。本展では、雪国を舞台にした絵本に加え、信州・黒姫を含む雪国を描いたスケッチ群を紹介します。

「私にはカマエはない」—変幻自在の画家—

赤羽は自分の技にこだわらず、物語の本質を見抜き、与えられた主題を最も生かす表現を模索しました。また、舞台となる地を取材してスケッチを重ね、主題やその土地の風土の美しさを最も的確に表現する筆や紙、技法を絵本ごとに研究しています。鹿児島、沖縄を舞台とした鮮やかな色彩の絵本や、源平絵巻や日本の神話を絵本化したシリーズなど、同じ画家とは思えないほどに多彩な表現を操りました。

「限りなき前進」を求めて—世界でも評価された赤羽末吉の絵本—

1980年、赤羽は70歳のときに、児童文学界への全業績に対して「小さなノーベル賞」ともいわれる国際アンデルセン賞画家賞を日本人として初めて受賞します。本展では、海外での受賞歴がある代表作『ほうまんの池のカッパ』、『そら、にげる』、『つるにようぼう』を展示します。

出展作品数

約 90 点

雪国



10 赤羽末吉 『かさじぞう』(福音館書店)より 1960年

兵庫



11 赤羽末吉 『源平物語絵巻 第五巻 ひよどりごえ』(偕成社)より 1971年/1979年

鹿児島



12 赤羽末吉 『ほうまんの池のカッパ』(BL出版)より 1975年

雪国



15 赤羽末吉 『つるにようぼう』(福音館書店)より 1979年

長野



13 赤羽末吉 妖山黒姫 1969年2月11日

沖縄



14 赤羽末吉 『黄金りゅうと天女』(BL出版)より 1974年

あかば すえきち

赤羽末吉(1910~1990)

東京・神田に生まれる。1年ほど日本画を学び、以後独学。1932年中国東北部に渡り、運送業や電信電話会社などの仕事のかたわら、郷土文化の研究、日本画の制作に励み、1940年から3年連続で満州国美術展にて特選賞を受賞。終戦を経て1947年帰国。1948年から52年までGHQの民間情報教育局(CIE)で、以後69年までアメリカ大使館で働く。1961年、50歳のときに最初の絵本『かさじぞう』を出版、以後80冊を超える絵本を発表した。国際アンデルセン賞画家賞(1980年)をはじめ、国内外の受賞多数。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

ちひろ美術館コレクション 波にゆられて舟の旅

2026年9月11日(金)～12月15日(火)

安曇野ちひろ美術館 展示室3

主催：ちひろ美術館

<同時開催>

いわさきちひろと堀文子
童画の世界

絵本の舞台を訪ねて
赤羽末吉の日本一周



16 タチヤーナ・マーブリナ(ロシア) 7人のセミオン 1961年



17 ウェン・シュウ(コスタリカ) 『ナディとシャオラン』より 2008年



18 イレーネ・サヴィーノ(ベネズエラ) 『光の主』より 1994年

世界の舟を見てみよう！

本展ではちひろ美術館のコレクションのなかから、舟の旅をテーマに作品を集めました。海を渡る大きな船や、ボートやゴンドラなどの小さな舟、昔話に登場する舟など、絵本画家が描く大きさもデザインもさまざまな舟をご紹介します。舟が浮かぶ波の表現にも注目してご覧ください。

展覧会の見どころ タチヤーナ・マーブリナ(ロシア) 7人のセミオン

ロシア民話「7人のセミオン」は、同じ名前だけれど能力の異なる7人の兄弟のおはなし。あるとき、王様が一目見て気に入った隣の島の王女をつれてくるよう7人の兄弟に命じ、末息子は歌と踊りの能力で、王女をつれ出します。作品に描かれたのは、大きな船に乗る王女と6人の兄弟、そして末息子です。描かれた船は窓の数も多く、帆も大きく、王女が乗るのにふさわしい立派なものです。

イレーネ・サヴィーノ(ベネズエラ) 『光の主』より

「光の主」はベネズエラのワラオ族に伝わる、光を求める人々のおはなしです。世界は初め、暗闇に包まれていました。ワラオ族の娘は「光の主」から光を分けてもらうため、暗闇のなかひとりリクリアラ(カヌー)を漕ぎだします。「ワラオ」という名前は「カヌーの民」を意味しています。

出展作品数 27点(予定)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

展覧会関連イベント

「いわさきちひろと堀文子」展オープニングトーク
中島良成×松本猛

日時：9月11日(金) 13:45～14:45

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

30年にわたり堀文子の画業を支えた中島良成さん(ナカジマアート)と、いわさきちひろの長男・松本猛(ちひろ美術館常任顧問)が、同じ年に生まれたふたりの画家について語り合います。

「赤羽末吉の日本一周」関連イベント
赤羽茂乃講演会「赤羽末吉の日本の旅」

日時：10月10日(土) 14:00～15:30

参加費：会場 700円(入館料別)・オンライン 700円

定員：会場 30名 オンライン 100名

申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)

Peatixにてお申し込みの方に限り、収録動画の見逃し配信(1ヶ月間)をご覧いただけます。

赤羽末吉の三男の妻で、評伝『絵本画家 赤羽末吉—スーホの草原にかけける虹—』の著者である赤羽茂乃さん。赤羽末吉の足跡をたどってきた茂乃さんが、赤羽の日本の旅と絵本の関わりについて語ります。

「いわさきちひろと堀文子」展スライドトーク

日時：11月3日(火・文化の日) 14:00～15:00

参加費：無料(入館料別)／定員：30名／申し込み不要

担当学芸員が、絵雑誌や絵本など、童画の仕事を中心に、いわさきちひろと堀文子の人生と作品を紹介します。

ちひろの水彩技法体験
こどりのミニカードをつくろう！

日時：11月29日(日) 11:00～12:00、14:00～15:00

参加費：500円(入館料別)／定員：各回12名

申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)

ギャラリートーク

日時：9月19日(土)・10月17日(土)・11月21日(土)

14:00～「いわさきちひろと堀文子」展

14:30～「赤羽末吉の日本一周」展

参加費：無料(入館料別)／申し込み：不要

安曇野ちひろ公園のイベント

おでかけホリデー

日時：9月26日(土) 10月24日(土)

10:00～15:00

食体験、おさんぽ会やマルシェなどを開催します。

安曇野ちひろ公園イベントお問い合わせ先

TEL.0261-85-8822

最新情報 chihiro-park.org

会期中のイベント

ちいさなおはなしの会 at 絵本カフェ

日時：9月27日(日) 11:00～11:20

参加費：無料(入館料別)／定員：20名／申し込み：不要

あかちゃんとおでかけしよう！
ファーストミュージアムデー

日時：11月19日(木) 10:00～11:00

参加費：無料(入館料別)／定員：10組

対象：0～2歳児と保護者

申し込み：要事前予約(公式サイト/TELにて)

長野県民感謝デー

日時：12月6日(日) 10:00～17:00

長野県にお住まいの方は、入館が無料になります。※受付でご住所のわかるものをご提示ください。

ちひろの誕生日会

日時：12月13日(日)

10:00～17:00

12月15日のちひろの誕生日に先立ちちひろの誕生日会を開催します。絵本のじかんやギャラリートークなど人気のイベントを行います。12月13日～15日にご来館の方には、ちひろのこぼれカードをプレゼントします。



絵本のじかん

日時：10月3日(土)・11月7日(土)・12月5日(土)

11:30～12:00

参加費：無料(入館料別)／定員：20名／申し込み：不要

展覧会基本情報

展覧会名	いわさきちひろと堀文子 童画の世界 絵本の舞台を訪ねて 赤羽末吉の日本一周 ちひろ美術館コレクション 波にゆられて舟の旅
会期	2026年9月11日(金)～12月15日(火) ※会期は予告なく変更になる場合があります。 ○開館時間＝10:00～17:00 ○休館日＝第2・4水曜日(祝休日は開館、翌平日休館) 2026年12月16日(水)～2027年2月末日は、冬期休館となります。
入館料	大人1200円／18歳以下・高校生以下無料 団体(有料入館者15名以上)、65歳以上、学生の方、18歳以下の子どもに同伴する保護者(子ども1名につき2名まで)は900円／障がい者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料／年間パスポート3000円
交通	○電車の場合＝JR大糸線信濃川駅より約2.5km (タクシー5分、レンタサイクル15分、徒歩30分) ○車の場合＝長野自動車道安曇野ICより約30分

※上記のイベントおよび開館情報は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お問い合わせ先は、公式サイトをご覧ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp

お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apublicity@chihiro.or.jp